



はるあき ひがん た 春秋のお彼岸にどうしておはぎを食べるの

にちれんしょうにん たす 日蓮上人を助けたぼたもち

はるあき ひがん ぶつぜん
春秋のお彼岸には、むかしからぼたもちが仏前にそなえられます。このぼたもちは、ぼ
はな がち じょせい
たんの花の形からとったもので、その女性ことばが「おはぎ」でした。いま ねん
ま え にちれんしょうにん けいじょう おく
まりも前、日蓮上人がとらえられて刑場に送られるとき、あわれんだおばあさんが、あず
いそ つく
きをにるひまがないので、ごまのぼたもちを急いで作り、なべのふたにのせて、にちれんしょうにん
さ だ にちれんしょうにん しょけい けんりよくしゃ
に差し出したそうです。さいわい、日蓮上人は処刑をまぬがれました。そうして、権力者
はくがい たい ほうなんしき
からの迫害に対する法難式には、ぼたもちがくばれるようになったということです。

さいなん ふりかかる災難をぬぐいさる

まい ひと も かえ むびょうそくさい かぞく た
お参りした人は、そのぼたもちを持ち帰り、やくよけや無病息災のために家族が食べる
にちれんしょうにん た じぶん さい
ようになりました。日蓮上人のように、これを食べることによって、自分にふりかかる災
なん ねが はるあき ひがん
難をぬぐいさる、という願いがこめられています。こんなところから、春秋のお彼岸には
そな た
おはぎが供えられ、これを食べるといふようになったのでしょうか。
はる ひがん のうこう はじ たいよう まつ れい ちから いの ぎしき
春のお彼岸では、農耕の始まりということで、太陽を祭り、霊の力ぞえを祈る儀式とな
あき ひがん とし しゅうかく いわ れい かんしゃ そな ぎしき
ります。秋のお彼岸では、その年の収穫を祝って、霊に感謝のお供えをする儀式となりま
す。（監修・保岡 孝之）

